

第13回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議 議事録

【日時】令和6年3月13日（水） 14:00～16:10

【会場】Zoom開催（ホスト：北海道医療大学薬学部）

【開催実行委員】小林道也（委員長、北海道医療大学）、大津史子（副委員長、名城大学）

【出席者】全国67大学薬学部から69名の教員が参加した。（別紙1）

1. 委員長である北海道医療大学薬学部 小林道也より開会の挨拶があった。
2. 小林委員長より、昨年の本教員会議のアンケート結果に基づき、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」の実施に向けて不安や課題がある学修目標として、
D-3-3_7) 「特別用途食品、保健機能食品、いわゆる健康食品等の有効性と安全性について、適切に評価する。」
D-3-4_3) 「不足している情報の創生や課題の解決を目的に、適切な情報リソースや研究デザインを検討し、研究計画の概要を立案する。」
が挙げられたことの説明があった。
そこで、今回の教員会議ではZoomのブレイクアウトルームを活用して、1つのルームに6～7名の参加教員がランダムに配置されるように設定し、いずれかの学修目標を選び、その学習目標を達成するための実習や演習のシナリオについて、90分間でプロダクトを作成するというワークショップを企画した。
3. グループワークは大きなトラブルもなく、予定通りに無事終了した。小林委員長より、各ルームの書記担当教員から小林までプロダクトをメール送信するよう依頼があり、欠席した大学を含め本教員会議メンバー間で共有する予定であると説明があった。
最後に、小林委員長より次年度も委員長・副委員長を交代せず、令和4年度改訂コアカリ実施に向けて本会議を通じて活発に進めていきたいとの説明があり、了承が得られ、会議がすべて終了した。

（文責：北海道医療大学 小林道也）